

図1 日本のプレート境界と火山

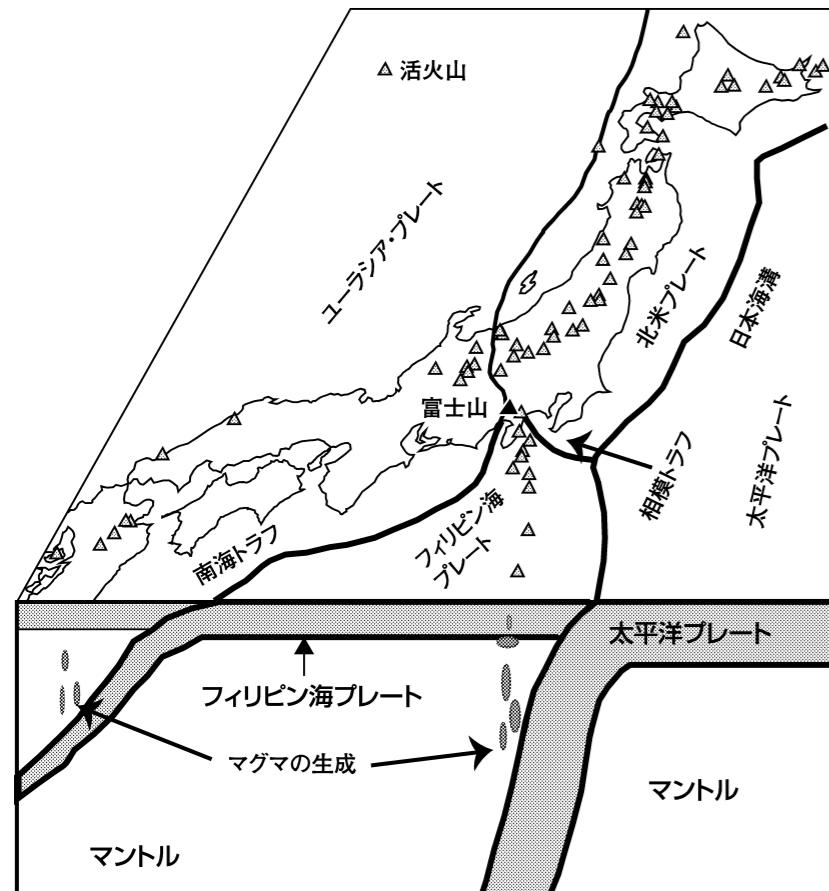
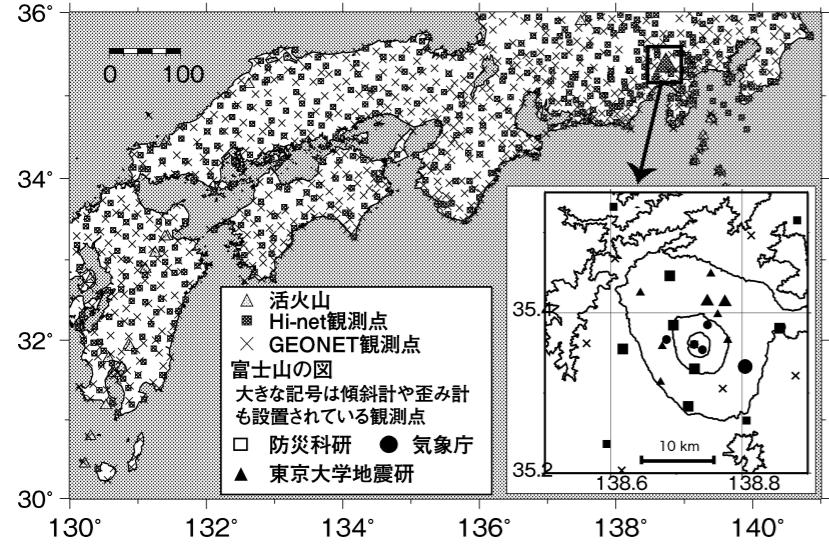


図2 観測点分布



災害要因を究明—予測へ

歪み・火山活動を把握

日本列島はユーラシアプレートと北米プレートという二つの大陸プレートが列島中央部で接している。その下には日本海溝から太平洋プレートが沈み込む際に大

南海トラフ地震と富士山噴火

日本大学文理学部
地球システム科学科 教授
鵜川 元雄

地震と火山の国であるわが国は、風光明媚な景色や肥沃な国土を享受している一方で、繰り返し襲ってくる巨大地震や大噴火に大きな犠牲を払っている。2011年東日本大震災後、南海トラフ沿いの海溝型巨大地震の発生や富士山の噴火が懸念されている。災害を軽減する基本の一つは、災害要因を理解し、さらに予測することである。近年、整備され地殻変動の観測網により南海トラフの海溝型巨大地震の震源域で進行する歪みの蓄積過程や富士山の地下の火山活動が把握され、その解説が進んでいる。

南海トラフ巨大地震と富士火山を監視する観測網

い。富士山も噴火の繰り返し間隔はバラつきが大きいため、繰り返し間隔をくまなく展開することに

E-ONEETという観測網を、また防災科技術研究所(防災科研)は約800ヵ所の

全地球測位システム(GPS)受信点からなるG

E-ONEETを日本列島に

設置している。これらの

観測網により、南海トラ

フ巨大地震の震源域の動

きが、1秒に満たない短

周期の運動である「微

地震」から、数カ月から

1年以上にわたるゆっ

く地殻変動まで高

精度で捉えられるように

巨大地震が発生する原

因は、海洋プレートが大

陸プレートを引きずりな

がら沈み込み、大陸プレ

ートの元に戻るとして

地殻変動が引き込む力を上

が引きずり込む力を上

が引きずり込む力を上